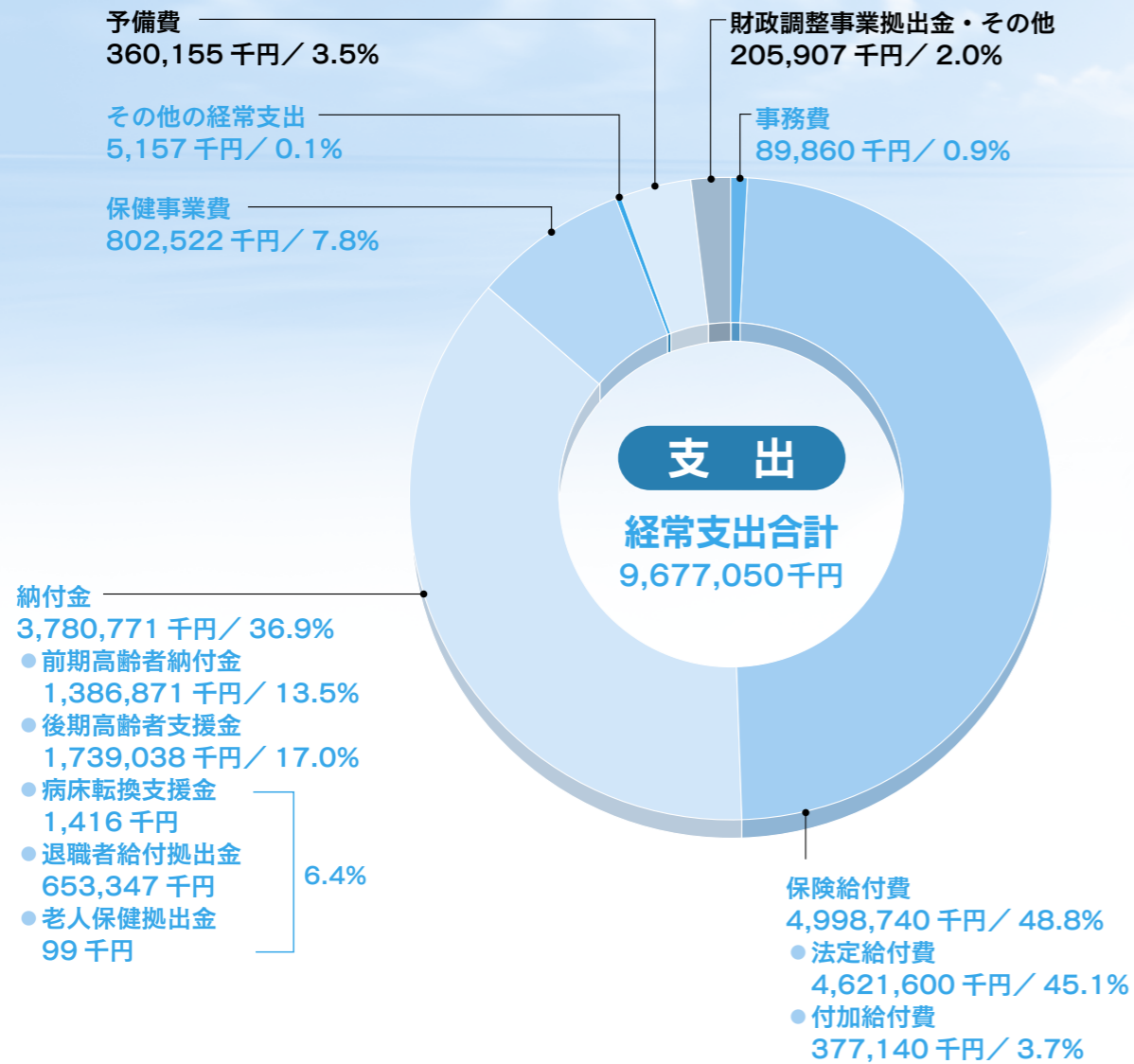


2009年度収支概要



■ 經常収支差引額の推移

(単位: 億円)

2003年度決算	2004年度決算	2005年度決算	2006年度決算	2007年度決算	2008年度決算見込	2009年度予算
▲6.5	1.7	0.3	▲5.7	▲3.9	▲2.7	▲4.1

※ 經常収支差引額は年度ごとの振幅が大きいが、主たる原因は高齢者医療制度への「納付金」(拠出金)の増減にある。

■ 組合概況 (予算算出の基礎数値)

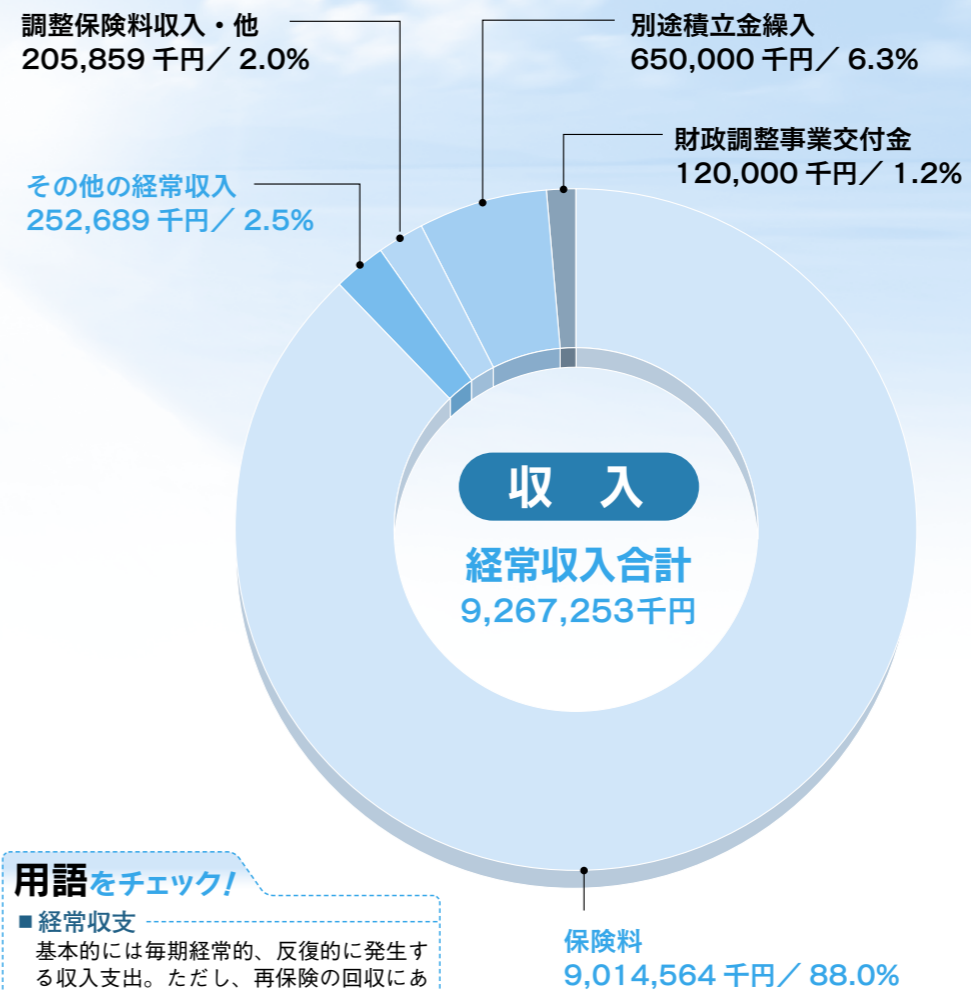
	2008年度予算	2009年度予算	増減
被保険者数	20,400人	21,800人	+1,400人
平均標準報酬月額	438,500円	432,000円	-6,500円
保険料率	56.0 / 1000	58.0 / 1000	+2.0 / 1000
事業主	38.0 / 1000	39.0 / 1000	+1.0 / 1000
被保険者	18.0 / 1000	19.0 / 1000	+1.0 / 1000
保険料率のうち			
特定保険料率 (*1)	23.88 / 1000	23.75 / 1000	-0.13 / 1000
介護保険料率	8.4 / 1000	8.4 / 1000	なし
事業主	4.2 / 1000	4.2 / 1000	なし
被保険者	4.2 / 1000	4.2 / 1000	なし

*1 高齢者の医療を支えるための他制度への持ち出しにあたる費用を「特定保険料」として独立させることで明確にするもの。

*2 予備編成後に行われた、納付金額の減額修正を考慮した特定保険料率。(当初の料率は26.06 / 1000)

合計 10,243,112千円

青字の項目… 經常収入・經常支出
黒字の項目… 經常外収入・經常外支出
%は総額に占める割合



用語をチェック!

- 經常収支
基本的には毎期經常的、反復的に発生する収入支出。ただし、再保険の回収にあたる財政調整事業交付金が經常収支から除かれており、企業会計の概念とは異質なものです。
- 經常以外の収支
臨時的に発生する収入支出。

2009年度 保険料率 ならびに 予算のお知らせ

2009年度の保険料率ならびに収入支出予算が決まりましたので、その概要をお知らせします。

■ 保険料率の改定

当健保組合は合併創立以来、単年度の赤字は過去の繰越剰余金である「別途積立金」で対処することとし、低めの保険料率で運営してまいりました。しかしながら、収支環境は厳しさを増しており、特に2008年4月の高齢者医療制度の改定による負担増が加わって、赤字はさらに拡大しつつあります。このため、今後比較的短期間で別途積立金が枯渇し、安定した事業運営が阻害される危惧が生じています。

一方、この制度改定の影響をある程度正確に把握できる時期は、新制度の仕組み上、その実績が明らかとなる2〜3年後となります。

このため、本格的な対応策の立案は2011年度頃とならざるを得ませんが、付加給付を含めた現行制度の特徴を生かしつつ、別途積立金の枯渇と保険料率の大幅な引き上げを回避するため、当面、小規模の保険料率の修正で様子を見ることが得策と判断し、2009年度の保険料率を改定することとなりました。新料率は、従来の料率から2ポイントの引き上げにあたる1000分の58。また、事業主・被保険者の負担はそれぞれ1ポイントの引き上げで、事業主39、被保険者19となります。

なお、介護保険料率は1000分の8.4(事業主・被保険者折半)のまま変更ありません。

■ 予算の概要

保健事業は、付加給付等の独自の給付とあわせ、当健保組合を特色づける事業です。

2009年度も社員本人と、家庭の健康管理の要である配偶者の健診・保健指導を柱として実施してまいります。昨年度法制化された「特定健診・保健指

導」についても、第1期5ヵ年計画の2年目を迎え、2012年の計画仕上げに向けた体制の整備を進めます。厳しい財政状況ではありますが、これらに必要な予算は確保しています。

以上を踏まえた2009年度予算は、上記グラフのように保険料率の改定による保険料の増加が約3億円あるものの、今回の料率改定の原因ともいえる、高齢者医療制度を支えるための「納付金」の負担が重く、經常収支差引額は約4.1億円の赤字予算となっています。健保組合としても、さらに適正で効率的な業務運営を推進してまいりますので、引き続き皆様のご理解と協力をお願いいたします。